

## 第 1 回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議議事要旨

日時：令和 5 年 6 月 1 9 日（月） 1 8 時 0 0 分～ 2 0 時 0 0 分

場所：世田谷区役所三軒茶屋分庁舎 3 階 教室

### ■ 出席者

〈会場出席者〉

長山会長、千葉委員、城田委員、竹内委員、市川委員、吉田(亮)委員

〈オンライン出席者〉

見城委員、松原委員、児玉委員、田中委員、吉田(凌)委員

### ■ 主な意見

- 新しい視点のみならず、業種別で議論を深掘りすることも必要。
- 主語（アクター）として、投資家や産業を支える専門家等があまり出なかったため、意識することが必要ではないか。
- 主語（アクター）は、M E C E の視点で網羅的に議論することが必要。
- 「課題」から議論すると、共通する課題がみえてきて、テーマ別になっていく。
- 創業期から衰退期まで事業のライフサイクル別に見ていくことも必要。
- 今のビジョンはよくできているので、活かす部分と追加する部分を考える必要がある。人材などは切り口や課題設定は使える部分が多い。
- 「課題」は委員それぞれが問題意識を持っているので、「課題」、「ありたい姿」、「取組み」をセットで議論するとよい。
- プレイヤー（主語）として「感動を与える人」も必要ではないか。スポーツ、演劇、カルチャーなどの分野。世代を超えてつながるきっかけにもなるし、地域の経済を支える人になるのではないか。
- 衰退期の議論でいうと、小口融資のレベルで代位弁済が増えている。東京都全体では例年の数倍になっており、原因を分析する必要がある。
- 事業承継は大きな課題。伝統的な技術やもったいない事業が継承されない状況がある。
- 職人がやめるケースも多い。その人しかできない技術があるが、新しい職人を養成できず、職人の高齢化も課題としてある。
- 土地を持っていると事業承継するより、不動産業に転じ土地を貸した方が有利になってしまう。その点は、世田谷特有の課題でもあるかもしれない。

- 計画的な事業承継のためには情報をどう取っていくか。各団体の顔が見える世界では後継者も出てくるかもしれない。
- 若い世代が農業で生活していけるというような環境を作ってあげる必要がある。
- 地産地消を進めるために、スムージーを作っている。ふるさと納税で魅力あるものを広げたり、学校給食にせたがやそだちを入れたりできたらいい。
- 市場の原理に任せていたらナショナルチェーンが入ってくるので、そこで政策介入するかどうか。そこでは世田谷が守りたいコモンが根拠になる。
- 建設業は自分で事業をやりたいという人が少ない。工業も仕事が面白いと思ってもらえるかどうか重要。ブラックのイメージが定着しているので、状況は変わっているが、やりたくないという意識が残っている。
- 待遇を良くするだけでなく、会社が何をしたいかや付加価値をきちんと伝えている会社には従業員が入ってきている印象がある。
- 新しいものを受け入れようとしない企業も多いのも事実。いいものを発信しても広がらないという面もある。
- 人材の採用においては、連携して学習の場があればいい。世田谷はパーパス経営の学習などが弱い印象もある。
- 時限的など条件を付けても、場所を安価で貸せば、起業者を呼び込める。行政や何かに協力してくれれば家賃を安くするというインセンティブもありかもしれない。
- 廃業後に新規の産業の話と関連させて、主語ごとに課題設定というよりは、新しい主体と関連させて、ストーリーのような形にした方がいい。
- 持続可能な発展を考える上では、事業者だけでなく、各プレイヤーがどうあるかということも意識が必要。
- フォアキャストとバックキャストが合流する地点をどうつくるかが大事。
- 1対1の支援ではなく、業界とか地域の課題に対する連携した主体にアプローチしてはどうか。渋谷では社会課題に対するオープンイノベーションのプラットフォームがあり、外部のアイデアを取り入れる取組もある。
- スタートアップを支援するというよりは、世田谷の持続可能な発展に関する課題にアプローチしてくれる人を集めていってはどうか。
- 世田谷には全体でこのような困りごとがあつて、これにどのような考え方ができるかや、実装に向けた実験的なことができる場ができればいい

のではないか。

- 持続可能をテーマに地域の新旧のプレイヤーがどのようなことができるか、という方向から考えてはどうか。
- そこには先進的な取組をしている事業者にも参加してもらおうとか、あたらしいことに取り組む人が集まるプラットフォームがあるとよいのではないか。
- 課題マップのようなループ図があると理解しやすいのではないか。
- インクルーシブな働き方も、きちんとお金が投入されるような実験的なことを後押しする。1個1個に対する支援というよりは、広くまとめたところに対する支援がいいのではないか。
- 働き方は雇用されるだけではない。
- 広くアイデアを募れる実験的な場があるとよい。
- R60 では、DX化に対応できるシニアやキャリアコンサルタントもたくさんいたが、1個の会社とマッチングするのは難しい。DXや人材に詳しい人が集まって議論し、実験に移せる場があるとよい。
- 経験を持ち寄って大きな枠で捉えればいいのではないか。
- 1個1個に対してマッチングするのではなく、課題全体に対してどうアプローチするか。1社に対して支援ではなく、共通の課題や地域の課題に対して議論する場やプラットフォームがあるといい。
- 解決に関わりたい人の行先がないのはもったいない。シニアの再就職とは違う働き方が提供できるとよいのでは。
- マッチングが大事かと思うが、SETAGAYAPORT 的に、何か力になりたい！というグループと課題を持つ事業者が一体で考えるプラットフォームがあるといい。
- SETAGAYAPORT の成果が見える化できていないのは、世田谷で一括りにするという単位が大きすぎるからではないか。対面でやる場合には、まちづくりセンター単位くらいまで小さな単位で実行する必要がある。
- 基本計画の重点政策でこどもや教育の分野での課題は出ており、その切り口で課題設定することもありかと思う。横断的に課題解決に資するのは産業の分野。様々な課題解決を企業などと新たな人を呼びこんでいき、コンソーシアムなどを組むのではないか。
- 渋谷は、区民がモニターとして登録できる仕組みがあるのがいい。関わった人が役割を果たすことで、自分の将来の役割に寄与するとかあれば意見を言っていくとか、生きがいにもつながる。まちにも多様な関わり方ができればライフキャリアにもいい影響がある。
- 地域で人材を受け止められるといい。主体的に活動できる場が作れば

いい。

- データが欲しい事業者が多く、データが価値を持つと世田谷は90万人のデータがあるので、90万人の多様な課題に対して逆プロポで企業がたくさんくるのではないか。90万人のデータが見える形になると財産になる。
- データをプロモーションにも使えるのではないか。
- ビジョンをいかに区民にも届けるか、それぞれの課題を集約するのは難しいが、主体的に動きたい方にどう取組みを伝えるかと、主体的に動く人を増やす仕組みづくりが重要。SETAGAYAPORT も一つの成功パターン。
- 世田谷は大きな消費地。公共サービスも区内事業者に提供することも検討してもらえたらよいのではないか。
- 農業に関しては、もう少し振り切ることも必要。エシカル消費を推進しているのに、エシカル商品が地元が少ない。
- 下記のような主語と目指す姿もあるのではないか。

【Z世代】 世論や選挙など高齢者人口が増える中、ヤングアダルトの意見や思想が反映される社会の仕組みがある。

【主婦】 子育てによる孤独を社会から支え、家事負担の偏りをあらゆる世代でサポートする仕組みがある。

【投資家・経営者・働き手】 一人ひとりのライフスタイルに合わせた、通勤・在宅スタイル選択に自由度がある。また、それを許容する会社や社会文化が醸成されている。  
事業活動のエネルギーや電力消費を客観視し、柔軟に電力エネルギー消費を切り替える事ができる。

【子供・Z世代】 デジタルリテラシーやデザインリテラシーを早期から培い、テクノロジーを駆使したデータドリブンな社会課題解決に取り組む仕組みがある。

【Z世代・高齢者】 18歳成年年齢引き下げによって標的にされがちなヤングアダルトを、啓蒙活動や消費者教育によって知識・経験の機会を得られる。

【感動を与える人】 社会に良い消費知識は、文化人・アーティスト・スポーツ選手達と共に知り、楽しく学ぶ機会がある。